

# 製品安全データシート

整理番号 tsukumi-2  
作成 2017年4月

## 1. 製品及び会社情報

製品名 水酸化カルシウム(消石灰)  
会社名 全国農業協同組合連合会 肥料農薬部  
住所 〒100-6832 東京都千代田区大手町1-3-1 JAビル33F  
TEL 03-6271-8285  
FAX 03-5218-2536  
E-mail [zz\\_hiyaku-gizyutsu@zennoh.or.jp](mailto:zz_hiyaku-gizyutsu@zennoh.or.jp)

## 2. 危険有害性の要約

-参考資料-

国際化学物質安全性カード(ICSC)-日本語版-  
<http://www.nihs.go.jp/ICSC/>  
ICSC番号:0408

### GHS分類

#### 物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性/引火性ガス	分類対象外
可燃性/引火性エアゾール	分類対象外
支燃性/酸化性ガス類	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	区分外
自己反応性物質および混合物	分類対象外
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	区分外
自己発熱性物質および混合物	区分外
水と接触して可燃性/引火性ガスを発生する物質および混合物	区分外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類できない
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない

#### 健康に対する有害性

急性毒性(経口)	区分外
急性毒性(経皮)	分類できない
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	区分2
目に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性:分類できない 皮膚感作性:分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1(呼吸器系)
標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分2(肺)
吸引力呼吸器有害性	分類できない

環境に対する有毒性  
水性環境有害性(急性)  
水性環境有害性(慢性)

分類できない  
分類できない

ラベル要素  
絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

皮膚刺激  
重篤な眼の損傷  
呼吸器系の障害  
長期または反復暴露による肺の障害のおそれ

注意書き  
安全対策

この製品を取り扱う作業中は、飲食・喫煙をしない。  
保護手袋、保護衣を着用すること。  
保護眼鏡、保護面を着用すること。  
保護マスクを着用すること。  
粉じんを吸引しないこと。  
取り扱い後はよく手を洗うこと。

救急措置

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。  
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。  
衣類にかかった場合、直ちに全ての汚染された衣類を脱ぎ、取り除くこと。また多量の水かシャワーで皮膚を洗い流すこと。  
汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。  
眼に入った場合、直ちに医師の診断、手当てを受けること。  
気分が悪い時には、医師の診断、手当てを受けること。

保管

施錠するなど、第三者が容易に触れることのないように保管すること。

廃棄

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・

化学物質

混合物の区別

化学名

水酸化カルシウム(化学式:Ca(OH)<sub>2</sub>)

含有量

95%以上

CAS番号

1305-62-0

化審法公示番号

1-181

### 4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい態勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

気分が悪い時には、直ちに医師の診断、手当てを受けること。  
皮膚への接触面積を最小限とするため、付着物を広げないよう取り除くこと。

目に入った場合

衣類にかかった場合、直ちに全ての汚染された衣類を脱ぎ、取り除くこと。また多量の水かシャワーで皮膚を洗い流すこと。  
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。  
気分が悪い時には、直ちに医師の診断、手当てを受けること。  
直ちに数分間多量の水で洗い流すこと。コンタクトレンズを容易に

<p>誤飲の場合</p> <p>予想される急性症状及び遅発性症状</p> <p>医師に対する特別注意事項</p>	<p>外せる場合は、外して洗うこと。 直ちに医師に連絡すること。 速やかに口をすすぐこと。 気分が悪い時には、直ちに医師の診断、手当てを受けること。 吸入：灼熱感、咳、咽頭痛 皮膚：刺激、発赤、ざらつき、痛み、皮膚の乾燥、薬傷、水泡 眼：発赤、痛み、重度の薬傷 経口摂取：灼熱感、腹痛、胃痙攣、嘔吐 なし</p>
<p>5. 火災時の措置</p> <p>消火剤</p> <p>使ってはならない消火剤 特有の危険有害性</p> <p>特有の消火方法</p> <p>消火を行う者の保護</p>	<p>小火災：粉末消火剤、二酸化炭素、散水 大火災：粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡消火剤、散水 なし 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。 不燃性であり、火災・爆発の危険性はないが、注水は飛散防止に配慮すること。 加熱あるいは水の混入により容器が爆発するおそれがある。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 容器内に水を入れてはいけない。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 消火作業の際は、適切な空気呼吸器を含め、適切な化学用保護衣を着用する。</p>
<p>6. 漏出時の措置</p> <p>人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置</p> <p>環境に対する注意事項 及び回収、中和について 封じ込め及び浄化方法 ・機材</p> <p>二次災害の防止策</p>	<p>直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。 作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や粉じん、ミストの吸入を避ける。 風上に留まる。 密閉された場所に立入る前に換気する。</p> <p>河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 こぼれた物質を乾燥容器内に掃き入れる。 危険でなければ漏れを止める。 粉じんの発生、拡散を防ぐ。</p> <p>すべての発火源や可燃性物質を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。</p>
<p>7. 取扱い及び保管上の注意</p> <p>取扱い</p> <p>技術的対策</p> <p>局所排気・全体換気</p> <p>安全取扱い注意事項</p>	<p>「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。</p> <p>この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 粉じんが発生しないように注意して取扱う。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 眼、皮膚に付けないこと。 眼に入れないこと。 粉じん、ミストを吸入しない。 取扱い後はよく手を洗うこと。</p>

接触回避	「10. 安定性及び反応性」を参照。	
保管	保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。	
技術的対策	「10. 安定性及び反応性」を参照。	
混触危険物質	容器を密閉し、涼しい乾燥した場所に保管すること。	
保管条件	強酸から離して保管する。	
	施錠して保管すること。	
容器包装材料	国連輸送法規で規定されている容器を使用する。	
	特に使用を避ける物質はなし	
<b>8. 暴露防止及び保護措置</b>		
管理濃度	設定されていない	
許容濃度(暴露限界値、生物学的暴露指標)	設定されていない	
日本産業衛生学会(2007年版)	設定されていない	
ACGIH(2007年版)	TLV-TWA 5mg/m <sup>3</sup>	
設備対策	粉じんが発生するような場所は、局所排気装置を設置する。	
保護具		
呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。	
手の保護具	保護手袋を着用すること。	
	ニトリルゴム及び塩ビは適切な保護材料ではない。	
	ネオプレンが推奨される。	
眼の保護具	眼の保護具を着用すること。	
	(安全ゴーグル、顔面シールド等)	
皮膚及び身体の保護具	顔面用の保護具、保護衣、安全靴等の保護具を着用すること。	
衛生対策	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。	
	取扱い後はよく手を洗うこと。	
	防じんマスク、防じん眼鏡、手袋	
<b>9. 物理的及び化学的性質</b>		
物理的状态	安定	
形状	粉末	
色	白色	
臭い	無臭	
ph	12.4(25°C飽和水溶液)	
融点	580°C(分解) (ICSCより)	
沸点	分解 (ICSCより)	
引火点	不燃性	
燃焼又は爆発範囲	データなし	
蒸気圧	データなし	
蒸気密度	データなし	
比重	2.2 (ICSCより)	
溶解度	水に微溶	
n-オクタノール/水分配係数	データなし	
自然発火温度	不燃性	
分解温度	580°C(分解) (ICSCより)	
<b>10. 安定性及び反応性</b>		
安定性	大気中で炭酸ガスを吸収し、漸次炭酸カルシウムとなる。	
	加熱すると分解し、酸化カルシウムを生じる。	
危険有害反応性可能性	酸類と反応し発熱する。	
	強酸化剤と反応する。	
	水の存在下で、多くの金属を侵し、引火性／爆発性のガス(水素)を生成する。	
避けるべき条件	空気との接触、加熱。	

<p>混触危険物質 危険有害な分解生成物</p>	<p>水の存在下で、多くの金属を侵す。 強酸化剤、酸類。 酸化カルシウム</p>
<p>11. 有害性情報</p> <p>急性毒性</p> <p>皮膚腐食性・刺激性</p> <p>眼に対する重篤な損傷・刺激性</p> <p>呼吸器感作性又は皮膚感作性 生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性 特定標的臓器・全身毒性－単回暴露</p> <p>特定標的臓器・全身毒性－反復暴露</p> <p>吸引性呼吸器有害性</p>	<p>経口：ラットのLD<sub>50</sub>値7340mg/kgに基づき区分外とした。</p> <p>経皮：データなし</p> <p>吸入（粉じん）：データなし</p> <p>目及び気道を含むすべての身体表面ばく露に対し、中程度の刺激性を示すとの記述（ACGIH、7th、2001）及びヒト皮膚に対してmoderate、severe、corrosiveな刺激を示すとの記述（IUCLID、2000；HSDB、2005；ICSC(J)、1997；SITTIG、4th、2002；HSFS、2005）から区分2とした。</p> <p>ヒト眼に対してmoderate、severe、corrosiveな刺激を示すとの記述（ACDIH、7th、2001；IUCLID、2000；HSDB、2005；ICSC(J)、1997；SITTIG、4th、2002；HSFS、2005）及びウサギに対してcorrosiveな刺激を示すとの記述（IUCLID、2000）から区分1とした。</p> <p>重篤な眼の損傷</p> <p>呼吸器感作性：データなし</p> <p>皮膚感作性：データなし</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>ヒト呼吸器、気道を刺激し肺水腫を引き起こすとの記述（ACDIH、7th、2001；HSDB、2005；ICSC(J)、1997；SITTIG、4th、2002；HSFS、2005）から区分1（呼吸器系）とした。</p> <p>呼吸器系の障害</p> <p>Priority2において、ヒト肺を冒すことがあるとの記述（ICSC(J)、1997；SITTIG、4th、2002）から区分2（肺）とした。</p> <p>長期又は反復ばく露による肺の障害のおそれ</p> <p>データなし</p>
<p>12. 環境影響情報</p> <p>生態毒性</p> <p>水生環境有害性（急性）</p> <p>水生環境有害性（慢性）</p> <p>残留性・分解性</p> <p>生体蓄積性</p> <p>土壤中の移動性</p>	<p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p> <p>データなし</p>
<p>13. 廃棄上の注意</p> <p>残余廃棄物</p> <p>汚染容器及び包装</p>	<p>廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。</p> <p>容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。</p> <p>空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。</p>
<p>14. 輸送上の注意</p> <p>国際規制</p> <p>海上規制情報</p> <p>航空規制情報</p> <p>国内規制</p> <p>陸上規制情報</p> <p>海上規制情報</p>	<p>該当しない</p> <p>該当しない</p> <p>該当しない</p> <p>該当しない</p> <p>該当しない</p>

航空規制情報  
特別の安全対策

該当しない  
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
重量物を上積みしない。

15. 適用法令  
労働安全衛生法

名称等を通知すべき有害物  
(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)  
(政令番号 第317号)

16. その他の情報

記載内容のうち、含有量、物理化学的性質等の値は保証値ではありません。  
本記載内容については、発行段階での資料、情報に基づいて作成されており、新しい知見によって改訂されることがあります。  
また注意事項は通常的な取扱いを対象としたもので、特殊な取扱いの場合には充分なご配慮をお願いします。

-参考資料-

独立行政法人製品評価技術基盤機構

<http://www.safe.nite.go.jp/>

国際化学物質安全性カード(ICSC)-日本語版-

<http://www.nihs.go.jp/ICSC/>

中央労働災害防止協会安全衛生情報センター

<https://www.jaish.gr.jp/>

本SDSは、下記戸高工業社の情報を元に作成しました。該当物質については、下記にお問い合わせください。

会社名

株式会社戸高鉱業社


住所

大分県津久見市合ノ元町6番7号

TEL

0972-82-6111(代表)

0972-82-3050(営業部)

販売 :  津久見ドロマイト工業株式会社

大分県臼杵市野津町大字落谷2824番地

TEL 0974-32-2118 e-mail info@dolomite.jp